

平成20年度

事前評価結果

平成20年12月

広島県研究開発評価委員会

目 次

1	評価対象及び評価基準・総合判定	1
	（1）評価の対象	1
	（2）評価基準	2
	（3）総合判定基準	2
2	評価結果	3
	（1）ランキング	3
	（2）ポートフォリオ	4
3	評価委員会意見（総合判定）	5
	課題別事前評価結果	7
	【参考資料】	
1	広島県研究開発評価委員会設置要綱	17
2	ワーキングスタッフ名簿	18
3	経 緯	19

1 評価対象及び評価基準・総合判定

県立総合技術研究所が平成21年度から新たに実施予定の研究課題について、「広島県研究課題評価マニュアル」に基づき事前評価を実施し、その結果を取りまとめた。

事前評価

開発しようとする技術の内容や手法を精査し、県として投資を行う価値の高いものを選定し、予算等の重点的配分を図るため、予算要求を行う事前の段階において、新規に立案された研究課題について、技術的な目標達成可能性や県民又は産業界の具体的なニーズの存否等を評価するもの

(1) 評価の対象

平成21年度から新たに実施予定の8課題を評価した。
評価対象研究課題一覧を表1に示す。

表1 評価対象研究課題一覧

番号	研究課題名	分野	センター名
1	廃石膏の資源化促進技術の開発	環境	保健環境センター 西部工業技術センター
2	酵素による分子改変を利用した動物性素材の食感・食味創造技術の開発	食品・バイオ	食品工業技術センター
3	車載電子モジュール用プラットフォームの開発	産業情報技術	西部工業技術センター
4	自動車の軽量化を実現するために必要な新接合プロセスの開発	材料・加工	東部工業技術センター 西部工業技術センター
5	炭素繊維複合材料による自動車部品の革新的低コスト成形・加工技術の開発	材料・加工	東部工業技術センター 西部工業技術センター
6	長期貯蔵によるレモンの周年出荷体制の確立	農業	農業技術センター 食品工業技術センター
7	濃厚飼料価格高騰に対する自給粗飼料多収・多給技術の開発	畜産	畜産技術センター
8	地付魚（メバル、オニオコゼなど）の蓄養技術の高度化と効率的な活魚輸送技術の開発	水産	水産海洋技術センター 食品工業技術センター

(2) 評価基準

ワーキングスタッフによる評価は、各課題について、「県民ニーズ」、「技術的達成可能性」及び「事業効果」の三つの項目で5段階評価し、これらの平均点を「総合評価点」として表した。

「県民ニーズ」、「技術的達成可能性」、「事業効果」の評価点の意味は、下記のとおりである。各項目において、「3点」は太字下線で示すように「標準的」であることを示す。

○ 県民ニーズ

5点 県民ニーズは極めて明確で大きい

4点 県民ニーズは明確で大きい

3点 県民ニーズは認められる

2点 十分な県民ニーズは認められない

1点 県民ニーズは認められない

○ 技術的達成可能性

5点 優位性、有効性、適切性が極めて高い

4点 優位性、有効性、適切性が高い

3点 優位性、有効性、適切性が認められる

2点 十分な優位性、有効性、適切性は認められない

1点 優位性、有効性、適切性は認められない

○ 事業効果

5点 事業効果の根拠が明確で、効果が極めて高い

4点 事業効果の根拠が明確で、効果が高い

3点 事業効果の根拠が明確で、効果が認められる

2点 事業効果の根拠は明確だが、効果が十分高いとはいえない

1点 事業効果の根拠が不明、あるいは効果が低い

(3) 総合判定基準

評価委員会として優先順位付けを行うため、ワーキンググループの評価を基に、評価委員会の見識により、次の3区分への総合判定を実施した。

区分	意義, 内容
S	県として優先して実施すべきもの
A	県として実施することが適切なもの
B	研究計画等の見直しが必要なもの

2 評価結果

(1) ランキング

○事前評価を実施した8課題について、総合評価点に基づくランキングを行った。(表2)

○8課題すべてが総合評価点3.5点以上であり、最高点は4.0点であった。いずれの課題も、全評価項目(県民ニーズ、技術的達成可能性、事業効果)において3点以上であったことから、研究計画は適切と認められる。

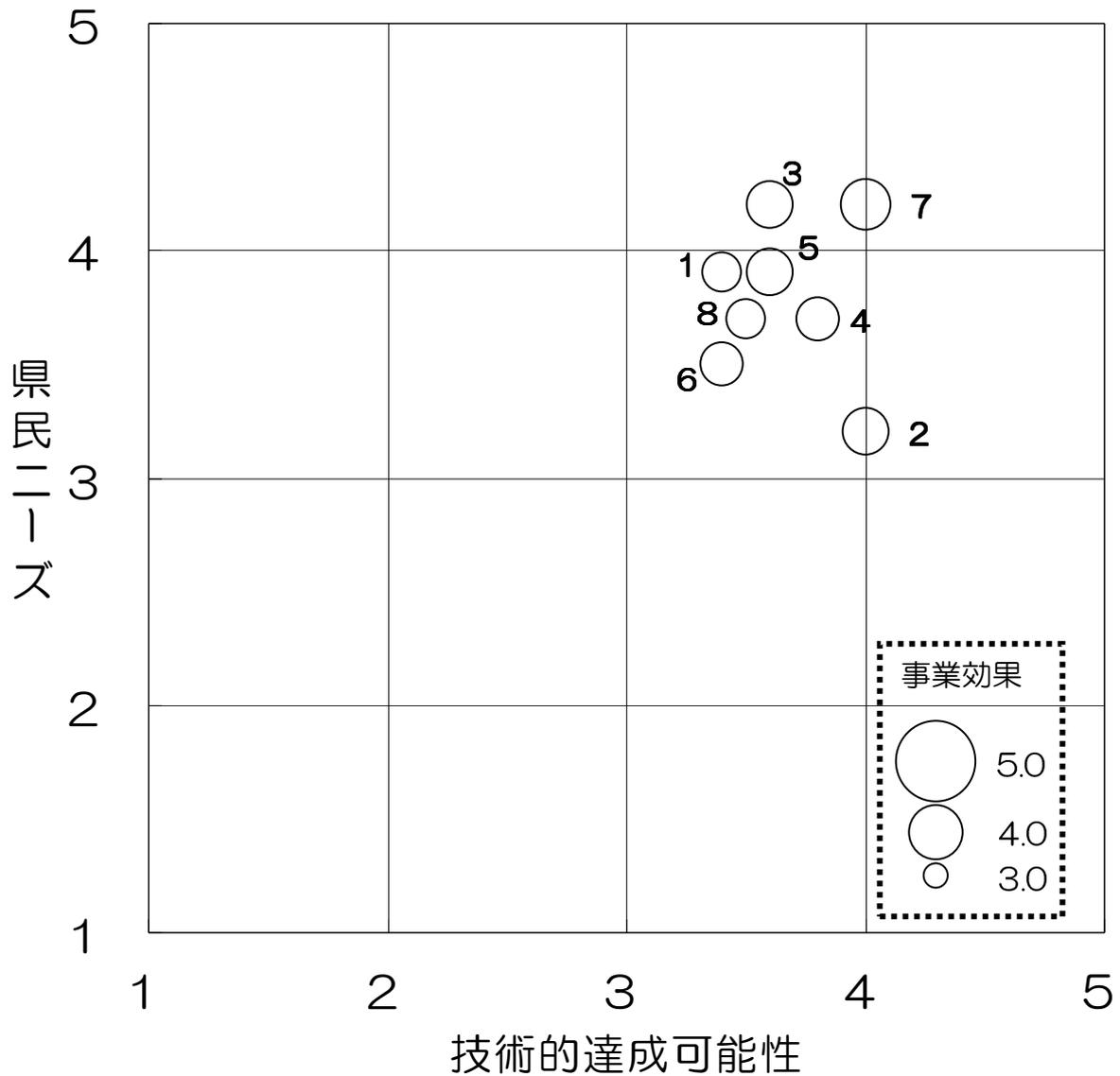
なお、農畜水産系の研究課題については、今回から流通販売面での視点を採り入れ、研究が成功した際の事業効果をより多角的に評価した。

表2 総合評価点によるランキング

順位	番号	研究課題名	分野	センター名	県民 ニーズ	技術的 達成 可能性	事業 効果	総合
1	7	濃厚飼料価格高騰に対する自給粗飼料多収・多給技術の開発	畜産	畜産技術センター	4.2	4.0	3.9	4.0
2	3	車載電子モジュール用プラットフォームの開発	産業情報 技術	西部工業技術センター	4.2	3.6	3.8	3.9
3	5	炭素繊維複合材料による自動車部品の革新的低コスト成形・加工技術の開発	材料・ 加工	東部工業技術センター 西部工業技術センター	3.9	3.6	3.8	3.8
4	2	酵素による分子改変を利用した動物性素材の食感・食味創造技術の開発	食品・ バイオ	食品工業技術センター	3.2	4.0	3.8	3.7
4	4	自動車の軽量化を実現するために必要な新接合プロセスの開発	材料・ 加工	東部工業技術センター 西部工業技術センター	3.7	3.8	3.6	3.7
6	1	廃石膏の資源化促進技術の開発	環境	保健環境センター 西部工業技術センター	3.9	3.4	3.5	3.6
6	8	地付魚(メバル、オニオコゼなど)の蓄養技術の高度化と効率的な活魚輸送技術の開発	水産	水産海洋技術センター 食品工業技術センター	3.7	3.5	3.5	3.6
8	6	長期貯蔵によるレモンの周年出荷体制の確立	農業	農業技術センター 食品工業技術センター	3.5	3.4	3.6	3.5

(2) ポートフォリオ

- 事前評価を実施した8課題について、県民ニーズ、技術的達成可能性及び事業効果の3つの大項目の評価点に基づくポートフォリオを作成した。



ポートフォリオ

図 ポートフォリオ

注) 図中の数字は、表1の「課題番号」である

3 評価委員会意見（総合判定）

- 判定の区分として下記のS, A, Bに区分することとした。
- ワーキングスタッフによる評価点, ランキング, ポートフォリオ, 委員の意見等を基に, 評価委員会において, 県が実施する必要性, 早期の事業効果, 経費に対する効果, 地域性・独自性, 横断性・融合性などを考慮し, 分野間の調整も含めて総合的に判断することとし, 今年度は, 次のとおりに区分けした。(表3, 表4参照)
- 県におかれては, この分類に沿って実施していただきたい。

S	県として優先して実施すべきもの
A	県として実施することが適切なもの
B	研究計画等の見直しが必要なもの

表3 S：県として優先して実施すべきもの 3課題

課題番号	研究課題名	センター名
3	車載電子モジュール用プラットフォームの開発	西部工業技術センター
5	炭素繊維複合材料による自動車部品の革新的低コスト成形・加工技術の開発	東部工業技術センター 西部工業技術センター
7	濃厚飼料価格高騰に対する自給粗飼料多収・多給技術の開発	畜産技術センター

表4 A：県として実施することが適切なもの 5課題

課題番号	研究課題名	センター名
1	廃石膏の資源化促進技術の開発	保健環境センター 西部工業技術センター
2	酵素による分子改変を利用した動物性素材の食感・食味創造技術の開発	食品工業技術センター
4	自動車の軽量化を実現するために必要な新接合プロセスの開発	東部工業技術センター 西部工業技術センター
6	長期貯蔵によるレモンの周年出荷体制の確立	農業技術センター 食品工業技術センター
8	地付魚（メバル, オニオコゼなど）の蓄養技術の高度化と効率的な活魚輸送技術の開発	水産海洋技術センター 食品工業技術センター

課題別事前評価結果

目 次

課題番号	分野	研究課題名	センター名	ページ
20-事前-001	環境	廃石膏の資源化促進技術の開発	保健環境センター 西部工業技術センター	9
20-事前-002	食品・バイオ	酵素による分子改変を利用した動物性 素材の食感・食味創造技術の開発	食品工業技術センター	10
20-事前-003	産業情報技術	車載電子モジュール用プラットフォームの 開発	西部工業技術センター	11
20-事前-004	材料・加工	自動車の軽量化を実現するために必要 な新接合プロセスの開発	東部工業技術センター 西部工業技術センター	12
20-事前-005	材料・加工	炭素繊維複合材料による自動車部品の 革新的低コスト成形・加工技術の開発	東部工業技術センター 西部工業技術センター	13
20-事前-006	農業	長期貯蔵によるレモンの周年出荷体制 の確立	農業技術センター 食品工業技術センター	14
20-事前-007	畜産	濃厚飼料価格高騰に対する自給粗飼料 多収・多給技術の開発	畜産技術センター	15
20-事前-008	水産	地付魚（メバル、オニオコゼなど）の 蓄養技術の高度化と効率的な活魚輸送 技術の開発	水産海洋技術センター 食品工業技術センター	16